

はじめてみたあかいノート

服部 葵央はっとり 葵あ

わたしには、1さいになったばかりのいもうとがいます。

「どうしてないているの？」

と、おかあさんにきくと、

「おなかがすいているんだよ。」とか、

「さっきうんちをしたからねむいんだよ。」

と、すぐにこたえて、そのとおりになります。おかあさんはまほうつかいみたいです。

「ないているだけなのに、どうしてそんなにきもちがわかるの？」

と、きくと、あかいノートを2さつもってきてくれました。

1ページあけるとわたしのなまえがかいてあって、2ページめからはミルクをのんだりややねているじかん、おむつをかえたじかんがかいてありました。

そして、1にち1にち「おふろのじかんにおおなき」とか「はじめて3にんでとおくにでかけた。」とかみじかいぶんしょうがかいてありました。

ページをどんどんめくって1さつめのさいこのほうになると、「おかゆ3さじ」や「は

じめてのたまご」などのメニューがでてきました。

わたしは196にちめに、はじめてのほうれんそうをたべたみたいです。

おかあさんはノートをみながら、

「きいちゃんがはじめてのあかちゃんだったから、たくさんやんですこしずつママをすることに慣れていったのよ。だからいまは2かいめだからなれているんだよ。」
と、いいました。

「なんねんママをしているの？」

と、きくと、

「きいちゃんが6さいだから、ママになって6ねん。」

と、いいました。

わたしがうまれたから、おかあさんもうまれたんだなとおもいました。

そして、いまのわたしがすききらいがすくないのは、あかちゃんのころからいろいろなごはんをつくってもらっていたからなのかなとおもいました。

「チーズはたべさせてなかったの？」

と、おかあさんにきくと、ふふつとわらいながらうなずいていました。

わたしは、いまチーズがとくいではありません。いつもごはんをつくってくれてあげがとう。